

▶▶▶ 教育・啓蒙プロジェクト

紀州地域における歴史と 文化的価値の教育・啓蒙プロジェクト

▶ プロジェクトメンバー

- 東 悦子（観光学部）
 吉村 旭輝（紀州経済史文化史研究所）
 荒木 良一（教育学部）
 遠藤 史（経済学部）
 大橋 直義（教育学部）
 菊川 恵三（教育学部）
 澤村 美幸（教育学部）
 富田 晃彦（教育学部）
 長廣 利崇（経済学部）
 西倉 実季（教育学部）
 彦次 佳（教育学部）
 平田 隆行（システム工学部）
 藤田 和史（経済学部）
 山神 達也（教育学部）

○はプロジェクト代表

▶ 共創相手

- 岸和田市、美浜町、和歌山市
 太地町教育委員会
 （公財）和歌山県国際交流協会
 和歌山県文書館
 和歌山市立貴志南小学校
 和歌山市立和歌浦小学校
 和歌山信愛女子高等学校
 和歌山大学教育学部附属小学校
 南海電気鉄道株式会社和歌山支社
 NPO法人日ノ岬・アメリカ村
 那賀移民史懇話会
 和歌祭実行委員会
 和歌祭保存会
 わかやま南北アメリカ協会

プロジェクトの背景

紀州経済史文化史研究所（以下、紀州研）は、1951年（昭和26）に設立された施設で、2008年（平成19）に博物館相当施設となった。

これまで、大学の「博物館」にあたる施設として県内外の文化施設と連携して、さまざまな研究領域の紀州研所員が、紀州地域学の研究をおこない、展示を中心とした活動を展開することによって、その成果を広く公開し、教育に還元してきた。しかし、ここ数年、展示活動のみにとどまらず、ニューズレターの発行、高校生を対象とした紀州研所員によるミニ講義や出前授業、YouTubeによる成果の発信など、新たな取り組みにも着手している。これらの事業を遂行する過程において、地域に設立されている多様な機関や団体およびさまざまな知見や経験を有する地域の人々との共同さらには共創へと発展してきた。

プロジェクトの目的

当研究所は、「紀州地域の経済、文化の史的 연구および人と自然に関する基礎的研究、並びに、それらに関する資料の収集及び公開を行い、「知」の提供を通じて地域社会の発展に寄与すること」を目的としている。この目的に則り、地域の人々とも共創し、さまざまな取り組みを通して、教育啓蒙事業を推進することを目的とした。

プロジェクトの活動内容

1. 『紀要』 発刊
2. 『きのみなと』 発刊
3. 2020年度展覧会/YouTube 配信
4. 玉谷哲氏特別講演
5. 講演「万葉集と和歌の浦」
6. 紀州研秋のミニ講義

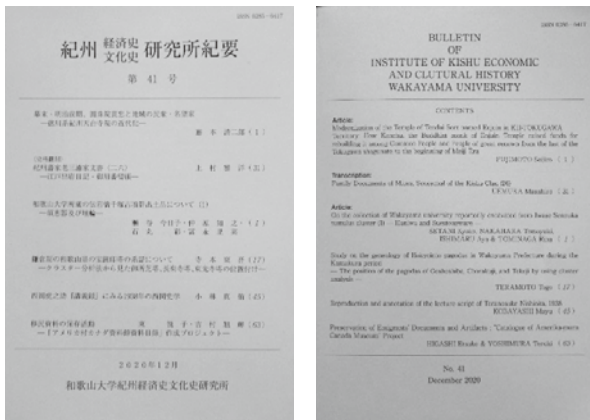
7. 共同研究事業：

- 「小学校高学年にむけた文学の読解と教育方法の研究」
- 「小学校高学年を対象とした「くずし字」指導と文化財教育の融合」

8. 和歌祭出前授業

1. 『紀要』発刊

『紀州経済史文化史研究所紀要』第41号を発刊した。紀州地域に関連するテーマで、現在は、所員に限らず論文を公募している。今号では、投稿・査読論文や依頼論文を合わせて、合計6件が掲載された。



紀要第41号表紙（和文および英文タイトル）

2. 『きのみなと』発刊

紀州研ニューズレター『きのみなと』6号および7号を発行した。所員による資料紹介、研究エッセイ、展示レポートおよび展覧会予告などで構成されている。



『きのみなと』6号

『きのみなと』7号

3. 2020年度展覧会/YouTube配信

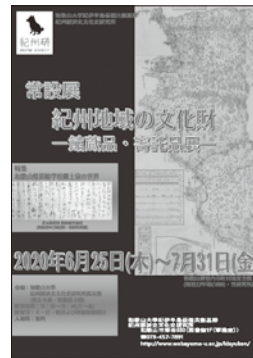
① [企画展] 和歌山 — 渡物と練物 —

- ・2020年4月7日～5月29日
- ・緊急事態宣言発出のため中止



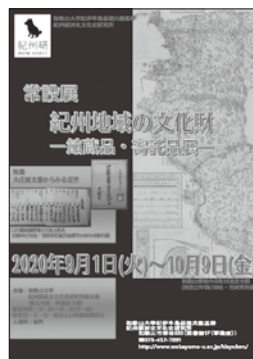
② [企画展] 紀州地域の文化財 — 館藏品・寄託品展 —
(特集：和歌山県師範学校郷土室の世界)

- ・2020年6月25日～7月31日
- ・総入場者16名（学内者のみ入室可能）
- ・動画視聴回数253回（2021年2月2日時点）



③ [企画展] 紀州地域の文化財 — 館藏品・寄託品展 —
(特集：大庄屋文書からみる近世)

- ・2020年9月1日～9月23日
- ・総入場者17名



④ [企画展] 亜米利加へ、加奈陀へ — 遺物と記憶から振り返る移民と和歌山 —

- ・2020年10月16日～11月5日
- ・総入場者151名
- ・動画視聴回数186回（2021年2月2日時点）



- ⑤ [特別展] 助左衛門家五代記 —高橋家と木ノ本村—
- ・2020年11月17日～12月18日
- ・総入場者96名
- ・動画視聴回数42回 (2021年2月2日時点)



特別展チラシ

- ⑥ [企画展] 泉州 岸和田の宗教文化 —高僧伝と寺社縁起—
- ・2020年1月21日～2月22日
- ・総入場者119名



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入場を制限するなどの対応をおこなうとともに、展示のダイジェストをYouTubeで配信することによっても公開した。(詳細は、『きのみなと』2021年度8号に報告)

4. 玉谷哲氏特別講演

「泉州 岸和田の宗教文化」展の玉谷哲氏特別講演として、2020年12月11日(金)、だんじり会館会議室において、次のような3部構成で実施・記録し、動画配信を行った。

①【講演】玉谷哲氏「泉州・岸和田の宗教文化—高僧伝と寺社縁起—」

岸和田市をはじめとした泉州市史編纂に長年関わってこられた玉谷哲氏に、展示会に関連して次の3点を中心にご講演いただいた。

- 1) 岸和田城下の社寺とその重要性、面白さについて
- 2) 泉州の行基信仰について
- 3) 葛城修験について

②【対談】「郷土史研究」

聞き手：大橋直義 (教育学部准教授・紀州経済史文化史研究所副所長)・吉村旭輝 (紀州経済史文化史研究所特任准教授)

対談では、玉谷哲氏ならびに岸和田の民話・伝承を人形劇にして子供たちの前で上演するという活動を行っている「おじかクラブ」の皆さまにも加わっていただき、郷土史研究とはなにか、志をこれからの私たちに託す、という意味合いで質問などにお答えいただいた。

5. 講演「万葉集と和歌の浦」

2020年10月16日(金)、和歌山県立向陽中学において、紀州研所長 菊川恵三 (教育学部教授) が、「万葉集と和歌の浦」をテーマとして講演を行った。和歌浦地域への遠足を予定していた中学1年生(80名)への事前学習の位置づけのもと、郷土教育の一環として実施された講演であった。

6. 紀州研秋のミニ講義

2020年11月9日(月)、オンライン会場において、秋のミニ講義を実施した。内容は2部構成で、これまで数年に渡り交流を継続してきた和歌山信愛女子高等学校の生徒を対象に、和歌山大学の学生が大学構内を案内する「キャンパス散歩」と4名の紀州研所員が行う「ミニ講義」であった。

①【キャンパス散歩】

- 「大学生といっしょにキャンパスを散歩しましょう」
- 「紀州研 企画展示案内：亜米利加へ、加奈陀へ—遺物と記憶から振り返る移民と和歌山」

②【ミニ講義】

- 遠藤 史 (言語学/経済学部)
「ユカギールの民話：シベリア少数民族の紡ぐ物語」
- 大橋直義 (中世日本文学・文献学/教育学部)

「粉河寺縁起絵巻を読み解く」

■富田晃彦（天文学／教育学部）

「人と星の往還」

■荒木良一（遺伝育種科学・植物栄養学・土壌学／教育学部）

「植物の鉄吸収戦略」

7. 共同研究事業

和歌山大学教育学部と同大学附属小学校の共同研究事業でありつつ、同時に紀州研の事業でもあるという位置付けで開催されたものである。

①「小学校高学年にむけた文学の読解と教育方法の研究」

2020年9月14日（土）および11月8日（土）、打ち合わせを行い、12月15日（火）に研究授業（録画）を実施した。その後、2021年1月23日（土）、和歌山大学附属小学校およびZoomによるオンライン会場において、「教育研究発表会」（教材：安房直子著「初雪のふる日」、授業者：附属小学校教諭、指導助言：大橋直義）が実施された。

オンライン上で県内外の初等教育関係者とディスカッションが行われた。共同研究の方法や比喩・象徴の関係を読み解くための方法について意見交換がなされた。

②「小学校高学年を対象とした「くずし字」指導と文化財教育の融合」

2020年11～2月、紀州研副所長大橋直義（教育学部）および教育学部 国語教育専攻に在籍する大橋ゼミの学生6名が、「くずし字」を学ぶための方法および内容についての会議を重ね、オンラインでも指導可能な教材コンテンツを開発し、附属小学校生徒を対象として授業を実施した。

第1回教材：渋川版御伽文庫『うらしま』

第2回教材：『道成寺縁起絵巻』

■2020年11～12月 オンラインコンテンツ制作および授業概要を制作

■2021年2月1日 附属小学校5・6年生F組において、第1回および第2回の授業を行った。F組担当教諭および大橋教員がZoom ミーティング等の授業サポートにあたり、栄谷キャンパス内から、学生がオンライン授業を行った。

■2021年2月3日 附属小学校4年生B組において、第1回授業を行った。これまでの「崩し字」授業ではもっとも年少の学年であった。

成果と課題として、「くずし字」の授業は国語の分野のみならず、社会（地歴・日本史）においても重要な観点となる。社会科としても使える授業コンテンツの開発や、県立・市立博物館および紀州研との協働も不可欠である。その一方、2020年度の特異な状況下において、オンラインコンテンツ作成に向けた方法論の構築が行えたことは大きな成果であった。

8. 和歌祭出前授業

①【和歌祭芸能体験ワークショップ】

2021年2月22日（月）、和歌山市立和歌浦小学校において、和歌祭の各種芸能披露および各種芸能体験を実施した。

②【和歌祭出前授業】

2020年12月10日（木）、和歌山市立和歌浦小学校において、4年生34名を対象として、和歌祭の出前授業を実施した。また、2021年3月10日（水）、和歌山市立貴志南小学校において、4年生54名を対象として出前授業を実施した。

①および②のいずれも、吉村旭輝（紀州経済史文化史研究所特任准教授）が指導した。

※詳細は、〈研究・展示プロジェクト事業〉「和歌の浦の景観および和歌祭の保存と継承プロジェクト」を参照されたい。

※以上、紀州研所員の敬称はすべて省略した。

プロジェクトの成果

2020年度は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、従来のように人と人が対面して、教育啓蒙活動を実施することができないことがほとんどであった。そのような制約のある状況下、YouTubeを手段の一つとして取り入れ、展示会のダイジェストの公開や講演会やミニ講義の録画による動画の公開など、新たな活動の方法を組み合わせることによって事業を中断することなく実施した。

それにより、展示を一例に挙げるならば、来場者が博物館に足を運ばない状況下においても、博物館相当施設としての100日以上展示会を実施し、動画視聴回数から、例年に及ばないものの数百人もの来場者を迎えることができ、海外からの視聴も得ることができた。

その結果、児童や生徒から一般の人々にいたるまでを対象として、教育啓蒙活動事業を進めることができた。

